

組織目標評価報告書（令和2年度）

部局名： 教師教育開発センター

部局長名： 三村 由香里

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域 ※教育領域に関する目標についてご記入ください。	教育領域の目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
②研究領域 ※研究領域に関する目標についてご記入ください。	研究領域の目標の達成状況
③社会貢献(診療を含む)領域 ※社会貢献(診療を含む)領域に関する目標についてご記入ください。	社会貢献(診療を含む)領域の目標の達成状況
④管理運営領域 ※管理運営領域に関する目標についてご記入ください。	管理運営領域の目標の達成状況
⑤センター・機構等業務	センター・機構等業務の目標の達成状況
<p>1. 教師教育開発部門</p> <p>(1) 全学コア・カリキュラムを着実に実施する。 (2) 教職課程認定学部を対象とした全学教職課程FD研修会を継続して実施する。 (3) 全学教職コア・カリキュラムに係る教材の内容を検討し、必要に応じて改定する。 (4) 全学教職コア・カリキュラムを、教員養成の質保証の観点から、有効性の検証を行うとともに、改善に向けてさらなる研究開発を推進する。 (5) 教育学研究科・教育学部並びに岡山県教育委員会等との共催により、岡山県が推進する「校内OJTチーム」を活用した「教師力パワーアップセミナー(若手教員授業力向上支援事業)」を開催する。 (6) その他、数値目標的なものとして、 ・全学教職課程の修了者数(学部・大学院:80名程度) ・教員採用試験受験者数(学部・大学院:20名程度) ・教員採用試験二次試験合格者数(学部・大学院:10名程度) 「授業力パワーアップセミナー」の受講者数(40名程度)</p> <p>2. 教職支援部門</p> <p>(1) 指導体制や指導内容の充実を図り、利用者の要望に応える教職相談室運営を進める。 (2) 高年次教養科目「教師力養成演習」を円滑に実施し、内容の充実を図る。 (3) 教職の魅力や伝え、教職への意欲を高めるガイダンスを行う。</p> <p>3. 教職コラボレーション部門</p> <p>(1) 岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、岡山大学の連携協力を調整・推進し、三者の持つ課題の解決に寄与する。 (2) スクールボランティアオリエンテーションの実施等により、学生にスクールボランティアの意義や情報を提供する。このことにより、活動者数等の増加を目指す。 【目標とする客観的指標】 ① スクールボランティア登録者数(9月30日時点)500名 ② 岡山県・岡山市教育委員会が実施する研修会(岡大サテライト研修を含む)等への学生の参加者数20名</p> <p>4. 理数系教員養成事業部門</p> <p>(1) 学生及び現職教員の状況を踏まえ、受講者の進路やニーズに対応してCST養成プログラムの実施内容の改善を行う。 (2) 岡山県・岡山市教育委員会、小・中学校の教育研究会等と連携し、理科ステップアップ研修会をはじめとする理科教育推進のための研修会を実施し、若手教員を中心とする教員の指導力向上や授業改善を援助するとともに、地域や学校におけるCSTの活動を支援する。 (3) CSTの養成及び活動支援のための教材・資料を開発・作成し、それらを活用した授業を提案するとともに受講者の意見を反映して改良し、それらの普及に努める。 (4) CST及び地域や学校からの要請に応じて、理科の研究会や研修会実施のための授業づくりや指導案作成等に対して積極的に協力する。 (5) 本年度の特別な事態を踏まえ、状況に応じて次の目標達成に努める。 ・CST養成プログラム受講者の認定基準を上回る受講時数の確保 (学生・科学・教科構成力探究講座3回、課題研究20コマ、研修構成力養成講座1回) (現職教員:現職CST研修講座及び現職課題研究等8日以上、50時間以上) ・教育委員会及び教育研究会等との連携研修会の実施、満足度の維持 (教育委員会との連携研修会 5回程度、教育研究会との連携研修会3回程度) (理科ステップアップ研修会受講者の肯定的評価80%以上)</p>	<p>1. 教師教育開発部門</p> <p>(1) 全学教職コア・カリキュラムの一環として、1年次対象に「全学教職オリエンテーションⅠ及びⅡ(5/27(水)、10/20(火))」を実施した。今年度はコロナ禍により1年次の全学教職課程履修説明会、母校訪問、母校訪問事前事後指導は中止した。コア・カリキュラムの授業として教職入門(2年次)、教育実習基礎研究(3年次)、教職実践演習(4年次)を例年通り実施した。 (2) 課程認定学部対象の全学教職課程FD研修会を農学部(9/24(木))、理学部(11/25(水))、文学部(3/2(火))で、それぞれ30分～1時間程度実施した。 (3) 全学教職コア・カリキュラムに係る教材の内容を検討し「教職論」ならびに「教育実習基礎研究」の各種教材の改訂、教職実践演習の「学生用ガイドブック」と「指導者用ハンドブック」を改訂した。また、今年度はコロナ禍に伴う教育実習と介護等体験の代替措置を検討し、該当学生を対象に実施した。特に教育実習の弾力化に係る補充措置として「作問演習」の手法を開発し実践した。また教育実習が完全に中止となった2名に対する代替措置ではICTを完全に活用した。 (4) 教員養成の質保証の観点から、全学教職コア・カリキュラムの有効性を検証するため、受講者調査を行い、結果をセンター運営委員会と全学教職課程運営委員会で報告した。回答傾向を検証するとともに、授業改善への具体策を検討した。 (5) 岡山県教委(津山教育事務所)と連携・協働し、同事務所管内の3中学校と7小学校を対象に、教育学研究科と協働で「授業力パワーアップセミナー」(6/9、8/5、12/25)を実施した。受講者は先輩教員13名、若手教員15名で合計28名であった。期間中、本学教育学研究科教員等による中間訪問指導も充実させ、延42人の本学教員が講師を務めた。今年度はNITSの補助支援事業に採択され、1/27(水)には成果報告を兼ねた教育学部FD研修会を開催し、報告書も刊行した。 (6) 令和3年3月1日には東京学芸大学のフォーラム(オンライン開催)にて「教員養成大学・学部における大学教職員の研修」の事例として本センターの取組を報告した。 (7) その他、今年度の教職課程修了者数は96名(学部81名・院生15名)、教員採用試験受験者数は36名(学部30名・院生6名)、教員採用試験二次試験合格者数は12名(学部10名・院生2名)であった。</p> <p>2. 教職支援部門</p> <p>(1) コロナ対策のため、4月20日から7週間にわたり対面相談は実施できなかった上、対面相談再開後も入室制限(相談者は一度に2名まで)を加えた。そのため、延べ利用者数は昨年同期比で58%(2,683人)と大幅に減少した。出願期間に当たる時期(4、5月)には、オンラインで願書指導を実施し、延べ149人の学生が利用した。予約が集中する7、8月は、13名の学部教員等の協力を得て、延べ139人の学生に対面指導をいただいた。 (2) 履修者は22名と、昨年度の53名を大きく下回った要因として、3、4年生のオリエンテーションが中止となり、学生への情報提供機会が得られなかったことが考えられる。これを踏まえ、次年度はより多様な広報ができるよう改善を進めている。本年度も6名の外部講師(内、岡山県・岡山市教育委員会から5名)を招聘し、専門性の高い演習内容にすることができた。受講した学生の満足度は各回とも高く、最終回での振り返りにおいて「講師の先生の講話について考えさせられた」と回答した割合は100%に達した。 (3) 年度当初計画していた1年生を対象とした「現職教員との交流」(5月)と、2年生を対象とした「現職教員との交流」(11月)ともに新型コロナウイルス感染症対策のために中止となった。12月に実施した3年生対象の、教員採用試験合格者33名の体験談を聞くガイダンスには、昨年度並の146名の参加を得ることができた。1、2年生時に実施した教職ガイダンス「現職教員との交流」の成果だと考えている。</p> <p>3. 教職コラボレーション部門</p> <p>(1) 岡山大学連携研修講座専門部会 【目的】 県市の教職員研修への学生の参加数の増加 岡大サテライト研修はコロナの影響で1件のみの実施となったが、県のeラーニング研修や、市作成のDVDがインターンシップの代替措置として活用された。この結果、学生の参加者数が大幅に増加した。(岡山県の研修受講者は328名 岡山市のDVD視聴者数は90名) (2) VALEO(学校支援ボランティアマッチングシステム)については、学部オリエンテーションに登録研修の組み入れができなかった影響により、R2年度の登録者数は前年から187名減の771名(12月末時点)となっている。H30年度以降継続して安定した運用が行われているが、岡山市教育委員会生涯学習課との会議を定例化し、効果の検証や確認を継続して実施することが決定している。 Moodle内にスクールボランティアヒーローのコースを設定し、学生にスクールボランティアに関する情報を提供する体制が整った。(1月8日時点登録学生数101名)詳細は令和2年度連携協力事業研究報告書参照。 ●客観的指標の推移 ・9月30日時点 スクールボランティア登録者数(岡山県全体)H31:726名→756名 ・岡山県・岡山市教育委員会が実施する研修会等への学生の参加者数H31:56名→R1:331名</p> <p>4. 理数系教員養成事業部門</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症による活動等への制限を踏まえ、学生の授業の履修状況、現職教員の勤務状況の把握し、実施可能な範囲を探りながらCST養成プログラムの講座等を見直し、状況に応じた運用に努めた。 本年度の学生CST養成プログラムにおいては、第九期生9名が初級、第七期生1名が中級CSTコースに新たに参加し、第八期生12名が年度末をもってプログラムを修了した。また、現職CST養成プログラムにおいては、第十期生(令和2・3年度生)10名が新たに参加し、第八期生1名及び第九期生7名が年度末をもってプログラムを修了した。 なお、教育機関や学校等での研修会や授業研究会等のほとんどが中止となり、大学での観察、実験などの演習等が実施できない期間が続いたため、これまでの実践的な内容での講座実施をすることは難しかった。そのため、資料の配付やonlineでのミーティング、限られた大学での演習を組み合わせるなどして、研修内容の保障に努め、受講者のニーズに個別に対応するようにした。新学習指導要領の実施にともない、多くの課題が指摘されている中で、教員の働き方やこれからの授業の在り方に対応し、教育現場を支援するための内容や方法を試みながら、改善を行った。 (2) 新型コロナウイルス感染症で多くの研究会や研修会が中止される中、実施内容や条件を岡山県教育委員会と協議し、地域の理科教育の推進とCSTの資質・能力の向上を図るための理科ステップアップ研修会を県下4会場、また、要望に応じて岡山市立学校1校で理科の研修会を実施し、各会場にCST担当者が出向き、授業協議会の指導・助言や観察、実験演習の講師を務めた。 (3) CSTが日常の授業改善や地域での研修会・研究会等で活用できる教材や資料を作成し、onlineで配信して必要に応じて利用できるようにするとともに、講座の演習等で検討を加えることで、現職教員の所属する学校現場で活用できる具体的な教材や資料となるよう改善を行った。 (4) CST及び地域の教育団体や学校からの支援の要請に応じて、ステップアップ研修会や地域の理科研究会等で実施される研究授業等の実施内容や学習指導案に対する相談を受け、教材を提供したり、実地指導や助言等を行ったりした。 (5) 学生養成プログラムの科学・教科構成力探究講座及び研修構成力養成講座については、その区分を設けず、広く受講できる機会を提供し、認定基準を満たす時間数を確保した。また、教育現場での多くの教育委員会等との連携研修会は見送り、ステップアップ研修会を県下4会場、その他を1会場で実施した。なお、開催状況を踏まえ、受講者による評価は実施していない。</p>